

第1学年 社会科(地理的分野)学習指導案

1 単元名 「世界の諸地域」 —ヨーロッパ州— (帝国書院)

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領内容(1)ウ「世界の諸地域」を受け、ヨーロッパ州において地域的特色を捉えさせる学習として設定したものである。ヨーロッパ州の地域的特色を捉えさせるに当たっては、「地域統合と地域間格差」を主題とし、学習問題を設定して地域的特色を追究するように単元構成する。

ヨーロッパ州は、多様な言語や宗教、生活習慣など文化の違いから多くの民族に分かれ、比較的狭い地域に多くの国が集まっている。また、ヨーロッパの国々は、15世紀から世界各地に植民地を獲得して国力をのばし国際的地位を高めていった。しかし、文化や考え方の違いから絶えず紛争を繰り返し、20世紀には2度の世界大戦の主な戦場となって大きな被害を受け、ヨーロッパ州の国々の国力は低下した。そのため、ヨーロッパの国々は、戦争を避けアメリカなどの大国に対抗するために、互いに協力して結び付きを強め欧州連合(EU)を結成し、地域統合を進めている。EU加盟国は増加し、国際的な発言力や競争力を回復させてきたが、EU域内では産業や生活の地域間格差が顕著となり、経済や貿易などでヨーロッパの国々に大きな影響を与えている。地域統合の影響と課題について多面的・多角的に考察し追究することは、地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域的特色や地域の課題を捉えさせる上で大変意義があると考えられる。

- 生徒は、社会科の学習に意欲的に取り組んでいる。1学期当初から授業中の質問や発問を積極的にすることで、話しやすい雰囲気や発言しやすい雰囲気づくりを行ってきた。生徒への意識調査では、「授業に集中して取り組んでいるか」の質問に対して、約9割の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答え、「社会科の学習は楽しいか」の質問に対して、約7割の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えている。しかし、約3割の生徒が、単元の導入段階で行う学習問題づくりや、単元の終末で行う討論などにおいて、発問の内容によっては考えがまとまらず、自分の考えを表現できないでいる。そのため、社会的な問題について、学習した内容を基に意思決定することに難しさを感じる生徒が多いと考えられる。
- 指導に当たっては、まず、ヨーロッパ州を概観するに当たり、ヨーロッパ州の地域的多様性について理解させる。ヨーロッパ州という地域に面積の小さい数多くの国が存在すること、地中海性気候、西岸海洋性気候など地域によって気候が異なること、気候に応じた様々な農業があること、ラテン系、スラブ系、ゲルマン系など様々な民族が存在することについてである。次に、ヨーロッパ州において共通通貨として利用されているユーロを生徒に提示し、なぜ多様なヨーロッパ州において地域的なまとまりを推し進めているのかについて疑問をもたせながら学習問題Ⅰ「ヨーロッパでは、なぜ、どのような地域統合が進んだのか調べよう」について追究しようとする意欲を高める。学習問題Ⅰを基に、EUの目的、共通政策を調べさせ、ヨーロッパの産業、人々の生活がどのように変化したのかを考えさせる。これにより、地域統合のよい影響(以下、メリット)について気付かせ、ヨーロッパ州の地域的特色についての理解を促したい。

次に、EUの政策によってヨーロッパの人々の生活に生じている問題点(以下、デメリット)として、EU加盟国の間で比較的豊かな西側諸国と貧しい東側諸国の間にある地域間格差を取り上げ、地域統合の課題について考えさせる。具体的事例としてイギリスやドイツなどへ移住して働くポーランド国民を取り上げ、地域間格差がどうして問題なのかを捉えさせる。その際、EU加盟国間での共通したルール(規約)、EUの目的やこれまでの経緯などに立ち戻らせながら、「国際競争力を大

きくすること」と「地域間の格差をなくしていくこと」の両立が難しいことに気付かせ、生徒の意思決定を迫ることで生徒の思考を揺さぶりたい。このようにして学習問題Ⅱ「これからのEUは、国際競争力の強化と地域間の格差をなくすこととのどちらをより重視すべきか。」を設定することにする。

最後に、生徒の支持するそれぞれの考えを基に討論型の学習を行わせる。これまでの学習で習得した知識を活用させることで、知識の定着を図りながら、地理的な見方や考え方の基礎を培うようにしたい。

3 単元の目標

- (1) ヨーロッパ州における地域統合と地域間格差について追究する学習問題を基に、ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとさせる。
- (2) ヨーロッパ州における地域統合と地域間格差について追究する学習問題を基に、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) ヨーロッパ州の地域的特色に関する様々な資料を収集させ、有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) ヨーロッパ州における地域統合と地域間格差について追究する学習問題を基に、ヨーロッパ州の地域的特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。

4 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度【関】	社会的な思考・判断・表現【思】	資料活用の技能【技】	社会的事象についての知識・理解【知】
○ヨーロッパ州における地域統合と地域間格差について追究する学習問題を基に、ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	○ヨーロッパ州における地域統合と地域間格差について追究する学習問題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○ヨーロッパ州の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○ヨーロッパ州における地域統合と地域間格差について追究する学習問題を基に、ヨーロッパ州の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

5 単元計画（全8時間 本時6/8）

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題を つかむ	○教科書や地図帳などの資料を見て、ヨーロッパ州の自然、歴史、文化、産業等の視点からヨーロッパ州について概観する。	○ヨーロッパの自然を、地図や写真などから読み取らせる。 ○様々な資料を提示し、多様な民族とヨーロッパ文化の共通性に着目させる。	・ヨーロッパ州の様々な資料から、ヨーロッパ州の自然や文化などの様子を読み取っている。 【技】	1
	○ヨーロッパ州の地域的特色を追究する課題を設定する。	○共通通貨ユーロの導入を基に、EU加盟国間の結び付きに気付かせる。 ○EU加盟国における地域統合の様子について調べさせることで、学習問	・ヨーロッパ州に関する資料を基に気付きや疑問をもっている。 【関】	1

		題Ⅰへ導く。		
		ヨーロッパでは、なぜ、どのような地域統合が進んだのか調べよう。《学習問題Ⅰ》		
調 べ る	○EU発足の目的と加盟国間でできることについて調べる。	○EU発足の4つの目的を基に、その背景や加盟国間でできることについて調べさせ、目的と関連付けながら理解させる。	・EU発足の目的とその背景について理解し、その知識を身に付けている。 【知】	1
	○EUの工業生産について調べ、国境を越えて協力することで国際競争力を付けたことをまとめる。	○協力して生産を行うEUの工業について読み取らせ、工業の発展の様子についてまとめるさせる。	・ヨーロッパの工業生産の特色を資料から読み取っている。 【技】	1
	○ヨーロッパ各地の農業について調べ、その特色をまとめる。	○ヨーロッパの農業について資料から読み取らせ、安定した食料の生産と供給が行われるようになったことを理解させる。	・ヨーロッパの農業の特色について資料を基に理解し、その知識を身に付けている。 【知】	1
考 え ・ ま と め る	○東ヨーロッパの酪農家やポーランドの出稼ぎ労働者の資料から、地域間格差があることやその背景を知る。	○EUの農業、工業に与える負の影響に触れることで、生徒のEUに対する肯定的な考えを揺さぶり、関心を高めさせる。	・EUの相反する側面を比較し、EUのこれからのについて、自分なりの考えを表現している。 【思】	1 本 時 (6/8)
	○EUのメリットとデメリットを表にまとめ、話し合うべき問題を見出し、学習問題Ⅱとして設定する。また、これを論題として、意思決定1を行う。	○EUの現状として「国際競争力」と「地域間格差」の対立に気付かせ、生徒の思考を揺さぶり、学習問題Ⅱへ導く。		
	論題 これからのEUは、国際競争力の強化と地域間の格差をなくすこととのどちらをより重視すべきか。《学習問題Ⅱ》			
	○論題について、自分の考えを基に、EUの現状を調査する。	○EU加盟国の労働条件や労働環境を比較させたり、EUの国際的地位に関する資料を提示したりして、生徒の思考を促す。	・様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。 【技】	1
	○これからのEUについて討論し、根拠を基に最終的な意思決定2を行う。	○TPPやFTTPなどを例に、EUの相反する側面は、将来の日本にも起こりうる可能性があることを説明し、することで切実感をもたせ、意思決定を促す。	・EUの相反する側面を比較し、根拠を基に自分の考えを表現している。 【思】	1

6 本時の目標

これからのEUについて、「国際競争力の強化」と「地域間格差の縮小」の相反する側面を比較し、自分なりの考えを表現することができる。

7 展開(全8時間 本時6/8)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 EUの基準によって苦しめられる東ヨーロッパの酪農家について知る。 2 学習のめあてを確認する。	○EUの農業、工業に与える負の影響に触れることで生徒のEUに対する肯定的な考えを揺さぶる。 ○EUのよい面だけではなく、問題点があることから、EUの在り方を考えることを意味付け、めあてを導く。
めあて EUのよい面と問題点を比べてこれからのEUについて考えよう。	
3 EU加盟国間で労働者の平均賃金に格差があること、EU域内で移動が自由であることから高い賃金を求めて労働者の移動が活発であることを調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 社会的な問題(解決すべき事柄) 「EU加盟国では、地域間の格差が生じていること」 </div> 4 EUのよい点と問題点を比較し、EUの相反する側面について考え、学習問題Ⅱを設定する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> よい点 国際競争力の強化 ・アメリカや日本と対等に渡り合えばEU全体の生活が豊かになる。 《自由》 </div> <div style="font-size: 2em;">⇄</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 問題点 地域間格差の縮小 ・EU加盟国内には、生活に困っている人々が出てきている。 《制限》 </div> </div>	○ドイツとポーランドの月平均賃金のグラフや既習のEUの規約を基に、加盟国間で生じた問題点や課題を整理する。これにより、EUの問題点「地域間格差が生じていること」を明らかにしていく。 ○生徒には、地域間の格差はなくしていくべきという考えが生じることが予想されるが、考えが偏らないようにEUの目的や歴史的背景から、EUのよい点と比較させ、生徒の葛藤を促していく。 ○EUのよい点と問題点を比較させるなかで、現状ではどちらも求めることは難しいことに気付かせる。これにより、EUの相反する側面(自由と制限)について、「どちらを大切にすべきか」を問い掛け、生徒の判断の違いから学習問題Ⅱへと導く。
論題 これからのEUは、国際競争力の強化と地域間の格差をなくすこととのどちらをより重視すべきか。《学習問題Ⅱ》	
5 学習問題Ⅱについての自分の考えを、ワークシートに記述する。(意思決定1) 6 次時の学習について確認する。	○理由を付けて記述させる。また、今後調べる必要のある事柄についても考えさせ、討論学習につなげる。 <div style="text-align: right;">【評価】</div> ○討論に向けて準備をすることを伝え、次時以降の学習への見通しをもたせる。

8 本時の評価

本時の 評価規準	これからのEUについて、「国際競争力の強化」と「地域間格差の縮小」の相反する側面を比較し、自分なりの考えを表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断のめやす)	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
	これからのEUは、国際競争力の強化と地域間の格差をなくすこととのどちらをより重視すべきか、根拠を基に記述している。	これからのEUは、国際競争力の強化と地域間の格差をなくすこととのどちらをより重視すべきか、自分なりの理由で記述している。	(B)に達していない記述
→(B),(C)と判断した生徒への支援策		→考えの理由について問い、根拠となる資料や資料から言える理由付けを付加させる。	→それぞれを選択する際の理由を問い、板書を基に確認しながら記述させる。
評価方法	ワークシートの記述		